

## 1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

### (1) 主体的な学び

#### 👁️ こんな実践

生活経験も価値観も異なる児童が、短時間で共通基盤に立ち、自分の心と対話したり、友達と関わり合ったりしながら、深く追求していけるように導入を工夫した道徳の授業です。

実践学校 M小学校

実践学年 2学年

実践時期 10月中旬

単元・題材名 「あたたかい心で親切に」

学習指導要領との関連：B 主として人との関わりに関すること

#### ①体験的な活動「納豆川渡り」の取組

くじ引きで、たまたま一緒になった友達とチームを組み、「納豆川渡り」に取り組みました。自分も相手も大事にしながら考えて、意見や思いを伝え合い、考えを練り上げていく中で、「ぼくの足ふんでいいよ」と優しく言って自分の足を踏ませる児童が出てきました。しばらくすると、もう一人、友達の上はきを持ちながら、「ぼくの上に乗せて」と、言って自分の足の上に友達の上はきをのせる子が出てきました。この二人の行為に着目させて、道徳的価値に迫っていきたいと考え、道徳の授業を展開しました。



#### ②主題名 あたたかい心で親切に【2-(2) 親切】 資料名「はしのうえのおおかみ」

導入で、大型テレビに「プレゼンテーションソフトで作った画像（前回までの様子、焦点をあてたい写真）」を映し出し、短時間で活動を想起できるようにしました。



(導入時用意した画像より抜粋)

### ③読み聞かせ

導入後、ペープサートを使い「はしのうえのおおかみ」の読み聞かせをしました。一回話し終わったところで、「わかった！わかった！」の聲が聞こえてきました。すでに子供たちは、本時の道徳的価値に迫っているように感じました。

### ④動物たちの心情を考える

キーワードになる言葉を黒板に貼り、資料に出てくる動物たちの心情について考えました。中心発問に迫るために、「うさぎたちのおおかみをこわがる気持ち」、「自分より小さくて弱い者に強がるおおかみ」、「自分より大きくて強そうなものに弱くなるおおかみ」という点をおさえながら進めていきました。「みんなのことを考えていない」、「相手のことを考えた方がいい」など、導入と関連していて本時の価値に迫るキーワードが早くも出てきていました。

### ⑤中心発問について考える→まとめへ

それぞれの育ちや経験、考え方が出やすい中心発問として、「くまのうしろ姿をいつまでも見送るおおかみはどんなことを考えていたでしょう」を投げかけ、個人追求に入りました。全体追求の中では、揺れる気持ち、反省、感謝の気持ち、次への行動への意欲、あこがれの気持ちが出されました。

児童は、友達の発表に反応しながら真剣に聞き、聞いては発言し、発言はとぎれることなく時間いっぱい続きました。



#### ここがポイント！

- ・ 1時間で道徳的価値に迫りたいのに、学習課題が設定されず、ぼんやり授業が終わってしまうことはありませんか？

大型テレビで画像を見て、児童が共通基盤に立ってから授業をスタートさせることで、短時間にシャープな導入をして、展開の時間を確保し、活発な話し合いができるようになります。

#### まとめ

短時間で共通基盤に立ち、学習課題が設定されると、児童は真剣に考え、活発な話し合いを十分することができます。大型テレビの活用が、十分な話し合いの時間を生み出す工夫の一つとして考えられます。